

第12回 湖南省美術展

2月18日から26日まで、市民学習交流センター(サンヒルズ甲西)で開催しました。会場には257点を展示し、鑑賞に訪れた人たちの目を楽しませていました。各部門の入賞者を紹介します(敬称略)。

湖南省美術展実行委員会(生涯学習課)(西庁舎) ☎77・6250 FAX77・6253

絵画の部

市長賞
陳 瑞林(草津市)
市議会議長賞
西村 周子(石部南)
市教育長賞
村上 陽子(草津市)



市長賞「栗」

書の部

市長賞
松田 百合子(菩提寺西) 市教育長賞
田中 久華(吉永)
市議会議長賞
音羽 憲子(日野町)



市長賞「くだらの」

写真の部

市長賞
平田 芳美(東近江市)
市議会議長賞
福本 勝(日野町)
市教育長賞
吉村 英光(栗東市)



市長賞「潜艇」

工芸・立体の部

市長賞
中村 克彦(大津市) 市教育長賞
肥後 訓次
(近江八幡市)
市議会議長賞
廣岡 秀樹(三雲)



市長賞「悠久」

人権シリーズ

「図書館の自由に関する宣言」

を知っていますか

基本的人権のひとつに、知る自由があります。これらの自由を守ることを原則として、ほとんどの図書館では「図書館の自由に関する宣言」を掲げています。

有川浩さんの著作『図書館戦争』は、この「図書館の自由に関する宣言」がきっかけで生まれたといわれています。

平成27年10月、作家の村上春樹さんが高校生のときに通っていた学校の図書室で書いた図書カードの写真と借りた本が「神戸新聞」夕刊に掲載されるといことがありました。

これは「図書館の自由に関する宣言」の第3「図書館は利用者の秘密を守る」に抵触するのではないかとして、日本図書館協会の図書館の自由委員会が神戸新聞社と情報提供した高校を訪問し、事情調査をしています。

当時、ほとんどの学校の図書室では本の内側にポケット

を貼り付け、そこに図書カードが入っていました。児童や生徒は、その図書カードに自分の名前を書いて本を借りることになっていたため、村上春樹さんも高校生時代にどんな本を読んでいたのか知られてしまったのです。

誰がどんな本を読んでいるかは、個人のプライバシーになります。したがって、図書館では本人の同意がない場合には、家族の人であっても正当な理由なしに借りている本や予約している本の名前を教えることはありません。

また、返却処理をした本の貸出記録は、すぐに削除されますので、たとえ図書館職員であっても、誰がどんな本を借りていたかはわかりません。

「図書館の自由に関する宣言」は湖南省の図書館にも掲げていますので、一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

《今月は、図書館が担当しました》